

## とちぎ夢大地応援団第3回カレッジ活動報告(令和2年1月12日実施)

### 佐野市 飛駒地区「コウゾの加工作業」

1月12日(日)、佐野市飛駒地区で令和元(2019)年度第3回「とちぎ夢大地応援団カレッジ」の活動を行いました。宇都宮市の帝京大学経済学部地域経済学科の1年生と教職員合わせて9人が参加し、同地区で生産されている「飛駒和紙」原料となるコウゾの皮むきに挑戦しました。

カレッジ活動は、農作業や農村資源の保全活動を通して、若い世代に農業農村の役割への理解を深めてもらうことが狙いです。県内の大学生や短大生、高校生らを対象に毎年実施しています。

飛駒和紙の生産は、江戸時代ごろから同地区で始まりました。いったん途絶えましたが、地元の人たちが保全会を立ち上げて復活。和紙は現在、佐野市内の小中学校の卒業証書などに使用されています。

同日、学生らは飛駒和紙会館で午後10時すぎから作業を開始。地元の人たちの指導を受けながら、大きな釜で煮上がったコウゾの木から、手際よく皮を剥ぎ取りました。1日をかけて20束ほどの皮剥きを完了しました。昼食は会館に隣接する「根古屋亭」で地粉を使ったそばなどを味わいながら、地元の人たちと交流しました。

作業を体験した日下部郁香さんは福島県出身。「私も地元産の和紙で作った卒業証書もらった。こうした作業を通じて作られているということがよく理解できた」と話しました。



▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。肌寒い天候でしたが若い力で作業もはかどりました。



はじめに、飛駒むらづくり推進協議会会長横塚順一氏より、御挨拶をいただきました。地方の農村では、若者に対する期待値が大変高く、呼び込みに必死になっている。今回作業を体験することで、農山村の現状を知って欲しいと語りました。



こちらが、コウゾ（楮）と呼ばれる和紙の原料となる木材になります。これを一気に蒸し上げて、冷めないうちに皮を剥ぎ取り、乾燥後、粉碎して和紙の原料とします。尚、飛駒和紙は他の和紙と比較し黄色がっていますが、大変強く、ちぎっても破れないそうです。



地元の方が、指導のもと、コウゾの皮を剥ぎ取ります。はじめ、手間取っていましたが、次第に慣れ、どんどん作業が進みます。コツとしては、はじめに皮を剥ぐあたりを付けて、一気に剥ぎ取るのが良いようです。大変蒸し暑い作業室の中で、お疲れ様でした。※写真は蒸気で曇っています。



昼食時間時の一コマです。関係も一緒になって、地場産のおそばに舌鼓。打ち立ての蕎麦は大変美味しく、食が進みます。また、炊きたての混ぜご飯も盛りが多く、お腹一杯になりました。その後、横塚会長による講話を行いました。地元の歴史や飛駒和紙について語りました。